



再稼働した後の使用済み核燃料は行き場がない！関電は原発を廃炉にせよ

高浜原発再稼働に怒り

福井地裁の運転差し止め決定を覆した大阪高裁。その高裁の決定に怒った市民団体が四月二十七日、関西電力本店前の公開空地で「高浜原発うごかすな！関電包囲全国集会」を開催、抗議の声を上げました。平日の昼間です。が七百名が集まりました。ちょうど関電が四号機に燃料を装荷する前日にあたる日ということもあって、熱気にあふれた集会になりました。この時、

五人の代表団が関電に申し入れを行いました。関電は担当者が会議中として会おうとせず、不誠実な対応に終始しました。集会後はうつぼ公園に移動し、そこからデモに出発しました。

四号機は初めて！プルサーマル発電

関西電力は四月二十八日、高浜原発四号機（加圧水型軽水炉、出力八七万キロワット）の原子炉に燃料を装荷する作業を始め

ました。プルトニウム・

ウラン混合化合物（MOX）燃料四体を含む一五七体。四号機としては初めてのMOX燃料を使った発電です。ウラン燃料での運転開始から三十二年、二十一年から停止していた四号機です。痛んだ箇所もあるはずで、

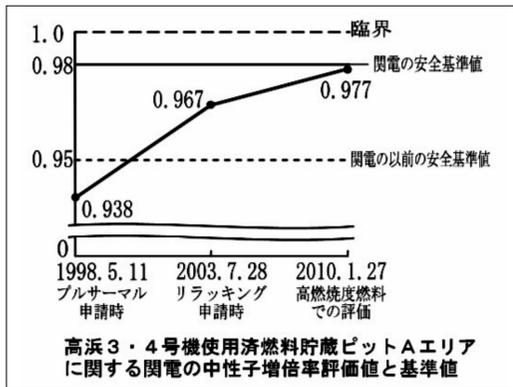
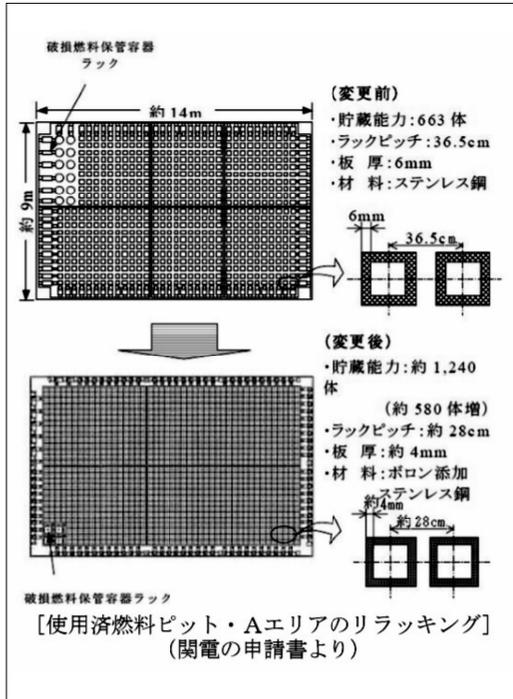
全部を点検することは不可能。それなのに不安定なMOX燃料を使うとは！これからどんなことが起きてても不思議ではありません。ちなみに三号機の燃料装荷は五月中頃。



ギョウギョウ詰めの使用済み核燃料で臨界の恐れ！

どんなことが起きても不思議ではないと書きましたが、グリーン・アクション、美浜・大飯・高浜原発に反対する大阪の会が二〇一〇年十二月十三日に出した見解によれば、「関電が参考にした米国規格を適用すれば臨界の危険性が存在する」そうです。

使用済み核燃料は、核



燃サイクル失敗のため捨
て場所がなく、高浜原発
三・四号機では格納容器
外の使用済燃料貯蔵ピッ
ト（プール）・Aエリア
で保管されています。

原発を動かせば動かす
ほど、使用済み核燃料は
増えます。そこで、関電
は二〇〇四年にリラッキ
ングという「稠密化」を

開始しました。
ラック中心間距離が三
六・五cmから二八cmへ、
ラック厚みが六mmから四
mmへと縮められ、その結
果貯蔵体数が六六三体か
ら一千二四〇体へと一・
九倍に増やされました。
ラックには中性子吸収
剤であるほう素入りステ
ンレス鋼が使われて臨界

を防ぐ措置がとられまし
たが、それでも中性子増
倍率は増加しました。
その後、高浜三・四号
機使用済燃料ピットは一・
二号機用にも共用化され、
高浜一・二号機燃料の高
燃焼度化の影響を受けて
中性子増倍率が増大しま
した。高燃焼度化によっ
て燃える（核分裂性）ウ

ランをよりの多く含んだ使
用済燃料がAエリアにも
貯蔵されるためです。
このような経過を経て、
中性子実効増倍率は図に
見られるように増加し、
〇・九七七に達しました
（一が臨界）。関電が甘
く定めた安全基準値は〇・
九八（以前は〇・九五）。
ギリギリです。要するに
リラッキングによって、
臨界の危険性が高まって
いるのです。

関電は原発を再稼働さ
せている場合ではありま
せん。即刻、所有する原
発を止めるべきです。

アート・アド分会 N